

第10回学術集会
国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会

温故知新

未来へ発信するリンパ浮腫治療のイノベーション

特別講演

リンパ浮腫の今までと
これから

佐藤 佳代子

さとうリンパ浮腫研究所 所長

教育講演

リンパ浮腫外科的治療の
今までとこれから

関 征央

聖マリアンナ医科大学 形成外科 講師

シンポジウム

多職種で取り組むリンパ浮腫治療

秋田 新介

千葉大学 形成・美容外科 講師

穴田 佐和子

ana治療院 院長

田尻 寿子

静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 理学療法士

宗定 水奈子

東京純心大学看護学科

がん・感染症センター都立駒込病院 がん看護専門看護師

祝 広香

慶応義塾大学病院 リハビリテーション科 理学療法士

ランチョンセミナー

心に残ったリンパ浮腫症例

演者：小林 範子 北海道大学病院 腫瘍科 講師

座長：辻 哲也 慶応義塾大学医学部 リハビリテーション医学教室 教授

会 期

2021年9月4日(土) 9:15-17:00

参加費用

学会員 5,000 円、非学会員 6,000 円 ※院内参加者は 3,000 円

詳細はWEBへ
<https://www.jol.jp/>



会長挨拶



第10回学術集会会長 林 明辰

(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

この度、国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会(ILFJ)第10回学術集会を、2021年9月4日(土)にWeb配信で開催させていただくことになりました。本学術集会を主催させていただきますことを、亀田総合病院リンパ浮腫センタースタッフ一同、大変光栄に存じます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により、国内の安全もいまだ不透明な状況であり、医療現場の緊張も続いております。この状況を鑑み、Web配信で開催することにいたしました。

昨今のがんサバイバーの増加に伴い、リンパ浮腫を抱える患者様の数も増加の一途をたどっています。このような背景から、リンパ浮腫治療における制度や治療法は大きな変革の時期を迎えようとしています。そこで、今回の学術集会では、「温故知新～未来へ発信するリンパ浮腫治療のイノベーション～」をテーマといたしました。特に、多職種で取り組むリンパ浮腫の保存的治療・外科的治療に焦点を当て、第一線で活躍されている様々な職種の方による講演やパネルディスカッションを企画いたしました。この機会に、引き継ぐべき基本と、さらなる発展へとつながるリンパ浮腫治療について学びと実りある学術集会にしたいと思い、鋭意取り組んでおります。

Web配信のみの学会開催は、ILFJとして初めての試みとなります。参加者の皆様と実り多き学術集会になりますように、スタッフ一同で最善を尽くす所存でございますので、多くのご参加をお待ちしております。

末筆ながら、皆様のさらなるご発展を心よりお祈り申し上げます。

2021年7月吉日

第10回 ILFJ 日程表

	タイムスケジュール	協賛企業
8:30	8:30～ 開場	一般社団法人ICAA 三優メディカル株式会社 GEヘルスケア・ジャパン株式会社 千葉支店 ナック商会株式会社 富士フイルムメディカル株式会社 株式会社ベーデル・プラス 株式会社メディックス ユコー株式会社 (五十音順、敬称略)
9:00		
	9:15～9:30 開会式 ILFJ理事長挨拶 真田 弘美 学会長挨拶 林 明辰	
9:30	9:30～9:50 会長講演 「リンパ浮腫外科治療における画像技術の進歩」 演者:林 明辰 座長:真田 弘美	
10:00		
	10:00～11:00 特別講演 「リンパ浮腫治療の今までとこれから」 演者:佐藤 佳代子 座長:千葉 恵子	
10:30		
11:00	11:00～11:10 coffee break	
11:30	11:10～12:30 一般演題 座長:轟 美佐子、林 明辰 ①土屋 紗由美「生殖器リンパ浮腫管理の教育ニーズに関する実態調査」 ②上田 映美「長期療養施設における高齢者の下腿慢性浮腫に対する圧迫療法がWell-beingに与える効果」 ③クリー 由美子「後腹膜肉腫による全身性浮腫により苦痛を生じた患者の希望を支えるセラピストの関わり」 ④沼口 友美「当院におけるリンパ浮腫センター設立後の医療リンパドレナージセラピストによる取り組み」 ⑤今方 裕子「ドセタキセルによる下肢浮腫が出現したステージIV乳がん患者の浮腫症状の出現特徴とQOLに関する事例報告」 ⑥轟 美佐子「リンパ浮腫評価の標準化に向けたアウトカム調査」 ⑦岩澤 玉青「リンパ浮腫とともに生きるとは ～患者の視点から～」	
12:00		
12:30	12:30～12:45 coffee break	
	12:45～13:30 ランチョンセミナー 「心に残ったリンパ浮腫症例」 共催:株式会社ベーデル・プラス 演者:小林 範子 座長:辻 哲也	
13:00		
13:30	13:30～13:45 coffee break	
14:00	13:45～15:25 シンポジウム 「多職種で取り組むリンパ浮腫治療」 座長:仲上 豪二朗、林 明辰 ①秋田 新介「皮膚のやわらかさの変化の客観的評価」 ②穴田 佐和子「治療院でリンパ浮腫を科学する～開業治療院と病院の医療連携のあり方とは～」 ③田尻 寿子「多職種で取り組むリンパ浮腫治療～作業療法士の立場より～」 ④宗定 水奈子「がん・感染症センターにおけるリンパ浮腫多職種連携の現状と課題」 ⑤祝 広香「力を合わせてリンパ浮腫患者さんを支える～部門を越えた体制構築～」	
14:30		
15:00		
15:30	15:25～15:40 coffee break	
16:00	15:40～16:40 教育講演 「リンパ浮腫外科治療の今までとこれから」 演者:関 征央 座長:林 明辰	
16:30	16:45～ 閉会式 副学会長挨拶:千葉 恵子	

プログラム

8:30～ 受付開始

9:00～9:30 開会式

ILFJ 理事長挨拶 真田 弘美(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/
創傷看護学分野 教授 グローバルナーシングリサーチセンター長)

学会長挨拶 林 明辰 (医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

9:30～9:50 会長講演

「リンパ浮腫外科治療における画像技術の進歩」

座長:真田 弘美(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/
創傷看護学分野 教授 グローバルナーシングリサーチセンター長)

第10回学術集会会長: 林 明辰 (医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

10:00～11:00 特別講演

「リンパ浮腫治療の今までとこれから」

座長:千葉 恵子 (亀田医療大学教員・緩和ケア認定看護師・リンパ浮腫療法士)

講師:佐藤 佳代子 (さとうリンパ浮腫研究所)

11:10～12:30 一般演題

座長:臺 美佐子 (藤田医科大学保健衛生学部 社会実装看護創成研究センター 准教授)

林 明辰 (亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

- ①生殖器リンパ浮腫管理の教育ニーズに関する実態調査:ILF Genital Oedema Project
(Clinical activities and educational needs of health professionals managing genital oedema)
土屋紗由美 (金沢大学医薬保健研究域保健学系)
- ②長期療養施設における高齢者の下腿慢性浮腫に対する圧迫療法が Well-being に与える効果
(Effects of compression therapy on well-being for older adults with chronic leg edema in a long-term care facility)
上田映美 公立小松大学保健医療学部看護学科
- ③後腹膜肉腫による全身性浮腫により苦痛を生じた患者の希望を支えるセラピストの関わり
ケリー由美子 (亀田総合病院リンパ浮腫センター)
- ④当院におけるリンパ浮腫センター設立後の医療リンパドレナージセラピストによる取り組み
沼口友美(亀田総合病院 リンパ浮腫センター)
- ⑤ドセタキセルによる下肢浮腫が出現したステージIV乳がん患者の浮腫症状の出現特徴と QOL に関する事例報告
(Symptoms and QOL of lower limb edema in stageIV breast cancer patients treated with docetaxel: case reports)
今方裕子 (石川県立看護大学成人看護学)
- ⑥リンパ浮腫評価の標準化に向けたアウトカム調査:ILF-COM
臺美佐子(藤田医科大学保健衛生学部 社会実装看護創成研究センター 准教授)

⑦リンパ浮腫とともに生きるとは ～患者の視点から～

岩澤玉青（リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット) 代表）

12:45～13:30 ランチョンセミナー

「心に残ったリンパ浮腫症例」

共催：株式会社バーテル・プラス

座長：辻 哲也（慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室 教授）

講師：小林 範子（北海道大学病院 婦人科 講師 / 医学博士）

13:45～15:25 シンポジウム

テーマ：「多職種で取り組むリンパ浮腫治療」

座長：仲上 豪二郎（東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学
／創傷看護学分野 准教授）

林 明辰（亀田総合病院 リンパ浮腫センター長）

①「皮膚のやわらかさの変化の客観的評価」

演者：秋田 新介（千葉大学 形成・美容外科 講師）

②「治療院でリンパ浮腫を科学する～開業治療院と病院の医療連携のあり方とは～」

演者：穴田 佐和子(ana 治療院 院長)

③「多職種で取り組むリンパ浮腫治療～作業療法士の立場より～」

演者：田尻 寿子（静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 作業療法士）

④「がん・感染症センターにおけるリンパ浮腫多職種連携の現状と課題」

演者：宗定 水奈子（東京純心大学看護学部看護学科がん・感染症センター都立駒込病院リンパ浮腫外来）

⑤「力を合わせてリンパ浮腫患者さんを支える～部門を越えた体制構築～」

演者：祝 広香（慶應義塾大学病院 リハビリテーション科 理学療法士）

15:40～16:40 教育講演

「リンパ浮腫の外科的治療の今までとこれから」

座長：林 明辰先生（亀田総合病院 リンパ浮腫センター長）

講師：関 征央（聖マリアンナ医科大学 形成外科学講座 講師）

16:45～ 閉会式

副学会長挨拶：千葉 恵子（亀田医療大学教員・緩和ケア認定看護師・リンパ浮腫療法士）

会長講演

「リンパ浮腫外科治療における画像技術の進歩」

座長: 真田 弘美

(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学/

創傷看護学分野 教授 グローバルナーシングリサーチセンター長)

第10回学術集会会長: 林 明辰(亀田総合病院リンパ浮腫センター長)

会長講演

「リンパ浮腫外科治療における画像技術の進歩」

林 明辰(亀田総合病院 リンパ浮腫センター センター長)



リンパ浮腫外科手術をより安全に行うためには、長径 0.3mm 以下のリンパ管や微細血管を術前や術中に「見える化」「診える化」することが重要である。近年、我々の施設では、50～70MHz の超高周波超音波や光コヒーレンストモグラフィー(OCT)を内蔵した顕微鏡などの最新イメージング技術を導入することで、より安全かつ効率的なスーパーマイクロサージャリーが可能になっている。高周波超音波は、これまでマイクロサージャリーにおいて、穿通枝同定や血流評価などに用いられてきた。近年、最大分解能がより高い最大 70Mhz の超高周波超音波が開発され、従来の技術では同定困難であった 0.3mm 以下のリンパ管や血管が同定可能になることを我々は発見し、術前の手術プラン作成に応用している。OCT は、これまで眼科分野において発達してきた断層画像診断の技術である。この技術を術中に用い、顕微鏡を用いリンパ管や微細構造物をリアルタイムにスキャンし解剖学的なフィードバックを術者に提供することで、それらの生理学的・病理学的な状態の可視化を可能にする。またさらには、これまでには不可能であった 0.3mm 以下の管腔同士の吻合部の評価も可能にする。これらの最新イメージング技術を用いることで、術中や術前に「造影剤を用いず」にかつ「リアルタイム」にリンパ管や微細血管を可視化でき、それらの正確な位置や変性を捉え選択することができる。そのため、これまでより安全に、低侵襲に、効率的・効果的なリンパ浮腫外科手術を行うことが可能になった。これらの最新技術は、リンパ浮腫外科手術の今後に改革をもたらすものとする。

●演者プロフィール

2010 年 順天堂大学 医学部卒業

国立国際医療研究センター病院 初期臨床研修医

2012 年 東京大学医学部付属病院 形成外科 医員

2015 年 国保旭中央病院 形成外科 主任医員

2017 年 AZ Sint-Maarten Hospital (Belgium) 技術指導医

2018 年 亀田総合病院 乳腺科 リンパ浮腫外来 医長

2019 年 Asan Medical Center(Korea) 客員教授

2020 年 亀田総合病院 リンパ浮腫センター センター長 ※現在に至る

Buncke Clinic (USA) 客員教授

2021 年 Kaoshiung Chang Gung Memorial Hospital (Taiwan) 客員教授

特別講演

「リンパ浮腫治療の今までとこれから」

座長: 千葉 恵子

(亀田医療大学教員・緩和ケア認定看護師・リンパ浮腫療法士)

講師: 佐藤 佳代子 (さとうリンパ浮腫研究所)

特別講演

「リンパ浮腫治療の今までとこれから」

講師:佐藤 佳代子(さとうリンパ浮腫研究所)



わが国のリンパ浮腫医療はこの 20 年間に漸進的な進化を遂げてきました。「命が助かったのだからしかたない」という言葉は、「より早期からの適切な診断と治療がQOLの向上につながる」という当事者の立場から考える医療に変わり、自助努力が中心であったリンパ浮腫ケアは保険適用化が認められ、全国各地の医療機関や治療施設には専門知識と技術をもつセラピストが存在しています。弾性包帯と弾性着衣の 2 択であった圧迫療法は、簡易的圧迫用品の開発により治療に費やす時間と労力の負担が大幅に軽減されました。新しいリンパ管系の知見が深まり、診断技術や評価法は飛躍的に進展し、更に精度を高めています。このような発展の途上において、普遍的に大切にされるべきは患者さん個々の暮らしを尊重した医療であると考えます。本日は、同じ診断名でも個別性の高いリンパ浮腫治療のこれからについて、皆様と一緒に考えることができましたら嬉しく思います。

●演者プロフィール

【専門・実績】20 代前半にドイツ留学し、リンパ静脈疾患専門病院「FöldiClinic(フェルディクリニック)」において実地研修を積み、日本人初のフェルディ式「複合的理学療法」認定教師資格を取得。日々のリンパ浮腫治療を中心に、個別セルフケア指導、医療製品の研究開発、リンパ浮腫治療の普及活動、医療職セラピストおよび指導者の育成、医療機関や看護協会等の教育機関における技術支援などに取り組む。【学歴・資格】1996 年 3 月学校法人後藤学園神奈川衛生学園専門学校卒業 5 月鍼灸あん摩マッサージ指圧師国家資格免許取得 10 月独バーデンヴェルテンベルク州VPTアカデミー理学療法学科・マッサージ学科所属 1998 年 7 月フェルディ式複合的理学療法セラピスト資格取得 9 月独フェルディクリニック実地研修、フェルディ学校教育アシスタント 2000 年 4 月フェルディ式複合的理学療法認定教師資格取得 2010 年 10 月ドイツ連邦共和国医療マッサージ師国家資格取得 2011 年 5 月フォダー式リンパ浮腫セラピスト資格取得 2013 年 1 月リンパ浮腫療法士資格認定(日本リンパ浮腫治療学会)2014 年 9 月放送大学教養学部教養学科医療と福祉課程卒業 2015 年 1 月弾性ストッキングコンダクター資格取得(日本静脈学会)2020 年 6 月弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター資格取得(日本静脈学会)2021 年 5 月日本小児障がい児支援協会認定セラピスト資格取得【職歴】1996 年 4 月学校法人後藤学園神奈川衛生学園専門学校非常勤講師 2001 年 4 月学校法人後藤学園附属リンパ浮腫治療室室長 2007 年 12 月学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所所長(2018 年度迄)2008 年 4 月聖路加看護大学看護実践開発研究センター客員研究員 2014 年 4 月NPO 法人日本医療リンパドレナージ協会副理事長(2020 年より理事)2016 年 9 月マッサージ治療室のあ開業 2018 年 12 月合同会社のあさとうリンパ浮腫研究所設立【所属学会・協議会】日本リンパ浮腫治療学会(評議員)、日本静脈学会、日本リンパ学会、国際リンパ学会、日本がん看護学会、NPO 法人日本医療リンパドレナージ協会、YNSA 山元式新頭鍼療法学会、日本小児障がい児支援協会【その他の活動】・NPO 法人日本医療リンパドレナージ協会理事、主席認定教師・九州リンパ浮腫センター顧問・J-LAM(リンパ脈管筋腫症)の会医療アドバイザー・日経 WOMAN オブザイヤー2007 受賞・「がんクリニカルパスデータベース構築に関する研究」リンパ浮腫標準パス作成 WG 班員・厚生労働省難治性疾患克服研究事業研究班「原発性リンパ浮腫診断治療指針作成委員会」【おもな著書】『リンパ浮腫の治療とケア』医学書院 2003 年、『リンパ浮腫治療のセルフケア』文光堂 2006 年『DVD 暮らしのなかのリンパ浮腫ケア実践ガイド上巻/下巻』青海社 2009 年『浮腫疾患に対する圧迫療法複合的理学療法による治療とケア』文光堂 2008 年『リンパ浮腫マネジメント～理論・評価・治療・症例～』ガイアブックス 2015 年他

教育講演

「リンパ浮腫外科治療の今までとこれから」

座長: 林 明辰 (亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

講師: 関 征央 (聖マリアンナ医科大学 形成外科学講座 講師)

教育講演

「リンパ浮腫外科的治療の今までとこれから」

講師: 関 征央 (聖マリアンナ医科大学 形成外科学講座 講師)



リンパ浮腫は患者の生活を脅かす慢性進行性疾患である。その治療法は大きく保存的治療と外科的治療に分けられ、保存的治療はリンパ浮腫治療の中核として、従来の複合的理学療法に日常生活指導を加えた複合的治療として行われている。

リンパ浮腫の問題は、浮腫が進行することにある。浮腫がある、すなわちリンパ液の貯留が存在すると、浮腫部のリンパ管は次第に変性し、さらに皮下・軟部組織には脂肪の沈着、変性、繊維化が生じる。一度成立したこれら構造変化により、リンパ液がさらに貯留するという悪循環によって、リンパ浮腫は進行する。

浮腫の本質的改善を目指した外科的治療としては、顕微鏡下に行われる手術であるリンパ管静脈吻合術とリンパ節移植術がある。限られた少数の施設でしか行われなかったこれら外科的治療は、この十数年で急速に世界中に広がり、その治療内容と効果に格段の進歩が得られるようになった。その発展の原動力について述べたい。

●演者プロフィール

2006年3月、秋田大学医学部医学科卒業

2006年4月-2008年3月、自治医科大学付属病院で初期臨床研修を行う

2008年4月、東京大学医学部 形成外科教室に入局

2009年4月-2011年3月、福島県立医科大学附属病院形成外科にて形成外科専門研修

同院准教授梶川明義先生(現、聖マリアンナ医科大学形成外科学講座教授)に師事

2011年4月より、東京大学医学部附属病院にて、同院形成外科教授の光嶋勲先生に師事し、リンパ浮腫外科治療に従事

2014年4月より、聖マリアンナ医科大学形成外科に所属

2015年11月、下肢リンパ浮腫に対する効果的 LVA 法を論文発表(膝上切開法)、同論文が平成 27 年度日本形成外科学会学術奨励賞を受賞

2017年-、日本形成外科学会リンパ浮腫ガイドライン作成委員会委員(2021/08/10、リンパ浮腫診療ガイドライン発行)

2019年1月、上肢リンパ浮腫に対する効果的 LVA 法を開発し、論文発表(The dynamic-LVA 法)

2019年11月より、聖マリアンナ医科大学形成外科講師、現在に至る

日本形成外科学会 形成外科専門医

日本マイクロサージャリー学会会員

米国マイクロサージャリー学会正会員

日本リンパ学会会員

国際リンパ学会正会員

ランチオンセミナー

共催:株式会社 ベーテル・プラス

座長:辻 哲也

(慶應義塾大学 医学部 リハビリテーション医学教室 教授)

講師:小林 範子

(北海道大学病院 婦人科 講師 / 医学博士)

ランチオンセミナー

「心に残ったリンパ浮腫症例」

講師: 小林 範子

(北海道大学病院 婦人科 講師 / 医学博士)



2002 年よりリンパ浮腫診療に関わり始め、札幌市内 2 施設でリンパ浮腫診療を行ってきた。婦人科がんリンパ節郭清術後の下肢リンパ浮腫を抱えている 患者さんの悩みを少しでも楽にできたら、という思いで開設した「リンパ浮腫 外来」であるが、予想に反して、上肢、原発性、男性、超高齢者、小児、高度 肥満、合併症多数症例等、経験したことのないケース、難治ケースにも多々遭遇し、悩みながら最善を模索して診療を行なってきた。リンパ浮腫は、症状、経過に加えて、患者のキャラクターや生活環境の要因 もかけあわせると、実に多様な転帰をたどっていく。本日は、私のリンパ浮腫 診療経験の中で心に残った症例を紹介したい。

●演者プロフィール

北海道大学病院 婦人科 講師, 医学博士

【学歴・職歴】

平成 6 年 福井医科大学(現 福井大学)医学部卒業

北海道大学医学部産婦人科入局, 旭川厚生病院産婦人科(研修医)

平成 7 年 千歳市立総合病院産婦人科

平成 8 年 国立函館病院産婦人科

平成 9 年 北海道大学医学部産婦人科(平成 12 年～医員)

平成 17 年 Ottawa Health Research Institute, Canada (postdoctoral fellow)

平成 20 年 市立札幌病院産婦人科(副医長)

平成 21 年 北海道大学大学院医学研究科総合女性システム学講座(特任助教)

平成 22 年 北海道大学病院婦人科(助教)

平成 25 年 北海道大学病院婦人科(外来医長)

平成 31 年 北海道大学病院婦人科(講師)

【主な専門分野】

女性の健康と QOL に関する分野:

ウイメンズヘルス(更年期障害, 骨粗鬆症, 女性ホルモン補充療法, 乳房検診, 漢方治療, 女性心身医学, 抗加齢医学, 性差医学, 女性アスリート支援), リンパ浮腫, サイコオンコロジー

【主な所属学会】

国際リンパ浮腫フレームワークジャパン研究協議会(理事), 日本産科婦人科学会(代議員, 女性ヘルスケア委員), 日本女性医学学会(幹事, 評議員, 教育委員), 日本産婦人科乳腺医学会(副幹事長, 研修委員), 日本乳癌検診学会(評議員), 日本リンパ浮腫治療学会(評議員, リンパ浮腫診療におけるチーム医療のあり方小委員会・ガイドライン作成委員会・医療安全委員会 委員), 日本性差医学・医療学会(評議員), 日本サイコオンコロジー学会(代議員, CST 担当委員会委員), 日本バイアスロン連盟委員(医・科学委員会医学委員), 北海道リンパ浮腫診療ネットワーク(代表), NPO 法人がんサポーター北海道(副理事長), 北海道産科婦人科学会(理事, 編集委員), 北海道骨粗鬆症研究会(理事), 女性アスリート健康サポート北海道(理事, 研修委員), 北海道産婦人科乳腺医学会(幹事), 北海道思春期研究会(幹事), リンパ浮腫研修運営委員

【主な専門医・資格】

日本産科婦人科学会専門医・指導医, 日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医・指導医, 日本東洋医学会漢方専門医, 日本抗加齢医学会専門医, 日本産婦人科乳腺医学会乳房疾患認定医, 日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィ読影認定医, 乳がん検診超音波検査実施・判定医師, 日本骨粗鬆症学会認定医, 日本女性心身医学会認定医, 日本スポーツ協会公認スポーツドクター, 日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ医, 日本医師会認定健康スポーツ医, 日本リンパ浮腫治療学会認定リンパ浮腫療法士, 医療リンパドレナージセラピスト, がん医療に携わる医師のためのコミュニケーション技術研修会ファシリテーター, 日本温泉気候物理医学会温泉療法医

【受賞歴】

The 9th International Menopause Society World Congress on Menopause, Poster Award (1999)

第 15 回臨床内分泌 up date 優秀演題賞 (2005)

日本更年期医学会平成 16 年度 The Japan Menopause Schering Grant (2005)

Canadian Institutes of Health Research – Strategic Training Initiative in Research in the Reproductive Health Sciences, Postdoctoral Fellowship (2006)

The 25th Annual Ottawa Reproductive Biology Workshop, Best Research Paper Award (2007)

Canadian Institutes of Health Research – Institute of Human Development, Child and Youth Health, Summer 2007 Award (2007)

The 53rd Annual meeting of the Canadian Fertility and Andrology Society, Best Resident/Student Award (2007)

The 53rd Annual meeting of the Canadian Fertility and Andrology Society, CFAS/Alpha Exchange Award (2007)

2008 Meeting of the Society for the Study of Reproduction, Travel Award (2008)

第 21 回婦人科骨粗鬆症研究会学術奨励賞 (2010)

第 66 回日本産科婦人科学会 International Session Good Poster Award (2014)

日本サイコオンコロジー学会教育功労賞 (2014)

International Lymphedema Framework Japan 10th Anniversary Award (2020)

Best Doctors in Japan™ 2020-2021 (2020)

シンポジウム

テーマ「多職種で取り組むリンパ浮腫治療」

座長: 仲上 豪二郎

(東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 老年看護学／
創傷看護学分野 准教授)

林 明辰(亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

シンポジスト:

秋田 新介 (千葉大学 形成・美容外科 講師)

穴田 佐和子(ana 治療院 院長)

田尻 寿子 (静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 作業療法士)

宗定 水奈子

(東京純心大学看護学部看護学科 がん・感染症センター都立駒込病院リンパ浮腫外来)

祝 広香(慶應義塾大学病院 リハビリテーション科 理学療法士)

(五十音順)

シンポジウム

「皮膚のやわらかさの変化の客観的評価」

演者: 秋田 新介

(千葉大学 形成・美容外科 講師)



【目的】リンパ浮腫診療においては、保存治療と外科治療がうまく掛け算になることで最も治療成果が上がる。本研究では、柔らかさに焦点を当てて検証した。

【方法】ISL 分類 II 期以降の続発性下肢リンパ浮腫患者 30 例において、保存治療の指導と外科治療を行った。保存治療の介入後 3 か月以上経過後、外科治療後 6 か月以上経過後に超音波検査における Shear wave velocity (SWV) 及び Cutometer の R0 値を用いた組織の柔らかさの評価を行った。体重のコントロール不良例においては外科治療を延期した。【結果】体積減少量は手術群と延期群の間に有意差を認め ($924.4 \pm 81.7\text{ml}$ vs $7.9 \pm 204.0\text{ml}$, $p < 0.0001$)、柔らかさの指標においても、それぞれ有意差がみられた一方で、体積 改善量と柔らかさの指標の間には有意な相関関係は見られなかった。外科治療後に $405.2 \pm 455.3\text{ml}$ の体積減少と柔らかさの指標の改善がみられた。

【結論】客観的な指標でとらえて検証することと治療効果発現のメカニズムを探究することがイノベーションを支える。

● 演者プロフィール

2002 年 千葉大学医学部卒業

2013 年 千葉大学大学院医学薬学府博士課程修了(先進医療科学専攻 形態再建医学)

2013 年- 2015 年 千葉県がんセンター 形成外科

2015 年-現在 千葉大学 医学附属病院 形成・美容外科 講師

日本形成外科学会評議員

日本創傷外科学会評議委員

日本リンパ浮腫治療学会評議員

日本リンパ浮腫学会評議員

Plastic and Reconstructive Surgery Global Open Editorial Board

5. 主要な論文

1. Early detection of lymphatic disorder and treatment for lymphedema following breast cancer. *Plast Reconstr Surg*. 2016; 138: 192e-202e. (日本形成外科学会学術奨励賞受賞)
2. Early diagnosis and risk factors for lymphedema following lymph node dissection for gynecologic cancer. *Plast Reconstr Surg*. 2013; 131: 283-90. (日本形成外科学会学術奨励賞受賞)

シンポジウム

「治療院でリンパ浮腫を科学する

～開業治療院と病院の医療連携のあり方とは～」

演者:穴田 佐和子

(ana 治療院 院長)



リンパ浮腫をとりまく環境は年々改善しているが、必要な治療に辿り着けなかったり、実際に希望しても受け入れ施設が限られていたりなど、十分な体制であるとは言い難い。がん拠点病院などに併設されているリンパ浮腫外来では、年々増える患者数に外来自体が逼迫し、セラピストの疲弊や、保険点数の縛りからくるケア時間の不足など、先の見えない現状がうかがえる。一方海外の事例をみると、リンパ浮腫治療の先進であるドイツでは、院外の開業セラピストに処方を持参し受診するスタイルが一般的である。リンパ浮腫ケアには、日々開発される弾性着衣の選定や、圧迫療法の技術、マッサージ技術も含め非常に高い専門性が必要であるが、現状では病院と治療院との連携はきちんと機能していないところがほとんどである。治療院がどのように医療連携をし、どのような立場で何をすべきなのかを、病院外来と開業治療院両方の立場を経験した立場から提言したい。

●演者プロフィール

1973 年 埼玉県川越生まれ

1996 年 東京農業大学農学部卒業

2002 年 続発性リンパ浮腫を発症

2003 年 県立病院内に仲間と卵巣がん子宮がんの患者会を設立

2008 年 学校法人後藤学園東京衛生学園専門学校入学

2011 年 「鍼灸あんまマッサージ指圧師」国家資格取得

「日本医療リンパドレナージ中級」取得

2011 年 学校法人後藤学園附属リンパ浮腫研究所入職

2013 年 学会認定資格「リンパ浮腫療法士」取得

2015 年 「日本医療リンパドレナージ上級」取得

2016 年 「ana 治療院」開業のちに法人成

2017 年 済生会川口総合病院 非常勤勤務

2018 年 JR 東京総合病院 非常勤勤務

シンポジウム

「多職種で取り組むリンパ浮腫治療

～作業療法士の立場より～」

演者:田尻 寿子

(静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 作業療法士)



作業療法士は、リハビリテーション関連職種であり、社会参加のための社会復帰支援にも重きを置いている。リンパ浮腫が重症化すると、皮下組織が線維化を起こし、関節可動域制限を来したり、歩行困難感を誘発したりすることがある。リンパ浮腫を発症されうる方や、発症された方々に対して、リンパ浮腫だけではなく、リンパ浮腫から派生する日常生活動作(Activities of Daily Living:以下 ADL)障害などの能力障害や、家事・仕事・趣味などの手段的 ADL(Instrumental Activities of Daily Living:以下 IADL)に関して、極力予防・改善するよう努力している。また複合的治療を行う際にも、個々人の生活にあわせ、生活を阻害しないような治療計画を立案するよう心掛けている。当日は具体的な例を挙げてお話しさせていただく予定です。

●演者プロフィール

【所 属】静岡県立静岡がんセンターリハビリテーション科

【学歴】

名古屋大学医療技術短期大学部 作業療法学科 1989 年卒業

北里大学大学院医療系研究科 2005 年卒業

【職 種・職歴】作業療法士(平成元年取得)

1989 年～慶應義塾大学月が瀬リハビリテーションセンターで主に脳血管疾患、運動器疾患の回復期リハビリテーションに従事

1997 年～湘南ふれあい学園茅ヶ崎リハビリテーション専門学校にて学生教育に従事

2002 年～静岡県立静岡がんセンターにて、リンパ浮腫関連においてはおもに乳がん、婦人科がん、皮膚がんなどの周術期リンパ浮腫予防指導、複合的治療などに携わる。

【資格・活動】

日本作業療法士協会認定作業療法士

日本作業療法士協会専門作業療法士(がん)

Dr.Vodder school of Manual lymph drainage and combined decongestive therapy 終了。

リンパ浮腫保険療法士

シンポジウム

「がん・感染症センターにおけるリンパ浮腫多職種連携の現状と課題」

演者:宗定 水奈子

(東京純心大学看護学部看護学科

がん・感染症センター都立駒込病院リンパ浮腫外来)



当院は東京都がん診療連携拠点病院であり、2015 年にリンパ浮腫外来を開設した。昨年度からは COVID-19 の影響を受け、一般診療科同様、リンパ浮腫外来は縮小され、多職種連携の充実は益々必要とされている。当院の連携体制は、該当患者の診療科に関わる医師、看護師、看護外来の専門・認定看護師、リンパ浮腫外来を担う医師、リンパ浮腫療法士である看護師、WOC、MSW、栄養士間が中心となっている。リンパ管静脈吻合術は形成外科で実施し始めているが、乳がん患者のみを対象としており、外科治療の拡大やリハビリ部門との連携は今後の課題である。外科的治療との連携不足の要因として、①がんの専門病院のため血管外科がない。②形成外科は乳房再建で多忙であり、余裕がなく、関心も低い。などがある。また、正直な気持ちとして、多くの症例を持つ他院の方が安心でもある。現実的に考えると、院外の医療機関との連携の充実も重要な方策である。

●演者プロフィール

東京純心大学看護学部講師、都立駒込病院リンパ浮腫外来担当非常勤看護師

がん看護専門看護師、リンパ浮腫療法士

2011 年 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 成人/緩和ケア看護学分野 看護師コース修了

2002 年東京都入職。(現、公益財団法人)多摩北部医療センターを経て、2009～2021 年 3 月 東京都立駒込病院にて、消化器内科、緩和ケア病棟、緩和ケアセンター、緩和ケアチーム、看護外来、リンパ浮腫外来を経験し、2021 年 4 月より現職。

シンポジウム

「力を合わせてリンパ浮腫患者さんを支える～部門を越えた体制構築～」

演者：祝 広香(慶應義塾大学病院 リハビリテーション科 理学療法士)



当院では、1 日平均約 4,000 人の来院患者(外来約 3,000 人、入院約 800 人)に対し、63 の診療科部門・診療施設部門・クラスター部門を設置し、約 2,700 人の職員が一丸となり医療提供を行っています。

多数の部門と専門職員がいることは、其々の分野における質の高い対応を可能としますが、リンパ浮腫のように、複数の介入タイミング、治療法(外科的・保存的)、入院・外来、原疾患診療科…と、単一の部門で対応が完結せず、部門を越えた連携が要となる病態では、大所帯の利点がかえって障壁となることも少なくありません。

患者さんがどのような病期でも病態でもどこにいても、誰かがキャッチし適切なケアの提供が行える体制構築を目指し、我々は院内リンパ浮腫ミーティングという場を利用し、障壁の解消に取り組んでいます。当日は、外科的治療と保存的治療の連携に焦点を当てた取り組みをご紹介します。

●演者プロフィール

神奈川県出身。2005 年国際医療福祉大学卒業、慶應義塾大学病院リハビリテーション科入職。緩和期のリハビリテーションに興味を持ち、3 学会合同呼吸療法認定士、心不全療養指導士、リンパ浮腫保険診療士の取得や、がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会や厚生労働省委託事業、人生の最終段階における医療体制整備事業 本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修会(E-FIELD)の修了等、緩和期の複雑な状況に対応するため各分野の専門性向上を目指して活動中。

一般演題

座長: 臺 美佐子

(藤田医科大学保健衛生学部 社会実装看護創成研究センター 准教授)

林 明辰

(亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

一般演題

生殖器リンパ浮腫管理の教育ニーズに関する実態調査:ILF Genital Oedema Project (Clinical activities and educational needs of health professionals managing genital oedema)

発表者:

土屋紗由美1)、上田映美2)、臺美佐子3)、小林範子4)、仲上豪二郎5),6)、須釜淳子7)、真田弘美5),6)

所属:

1)金沢大学医薬保健研究域保健学系

2)公立小松大学 看護学部

3)藤田医科大学保健衛生学部 社会実装看護創成研究センター

4)北海道大学病院婦人科

5)東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護学分野

6)東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナースングリサーチセンター

7)藤田医科大学保健衛生学部 社会実装看護創成研究センター

【目的】四肢に発症するリンパ浮腫に関する医療者への教育は広く行われているが、生殖器浮腫に関する教育プログラムはない。本研究の目的は、リンパ浮腫管理を行う医療従事者の生殖器浮腫に関する知識の現状と、教育ニーズを明らかにすることである。

【方法】研究参加に同意したリンパ浮腫管理に従事する医療従事者を対象とし、アンケート調査を実施した。アンケートには、性別・リンパ浮腫に関する経験年数等の基本属性、生殖器浮腫についての知識の自信の程度、生殖器浮腫の講習内容・方法の重要度に関する認識についての質問が含まれた。分析は、知識の自信の程度についての回答を4段階(わからない:0点、全く自信がない:1点、多少自信がある:2点、大変自信がある:3点)で点数化し、平均スコアが2.0以上の者を自信あり群、2.0未満の者を自信なし群として各対象者の背景をカイニ乗検定により比較した。その後、自信なし群の教育ニーズを抽出した。本研究は、筆頭演者の所属機関の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】総回答数・分析対象数は70例(自信あり群6例、自信なし群64例)であった。リンパ浮腫に関する経験年数の区分($p=0.024$)、性別($p=0.046$)、生殖器浮腫に関する講習受講時間の区分($p<0.01$)に関して、自信あり群と自信なし群の間に偏りがあった。自信あり群では自信なし群と比較して、経験年数11年以上、男性、講習受講時間5-8時間・16時間以上の割合が有意に高かった。自信なし群において、講習内容の重要度に関する質問項目のうち、重要であると回答した割合が特に高かった項目は、「生殖器の浮腫の圧迫着衣やサポーター」(89.1%)、「スキンケアや生殖器の浮腫に伴う感染リスクを減少させるケア」(87.5%)、「一般的な病理学と生殖器の浮腫発症のリスクを引き起こす医学的介入」(85.9%)であった。

【結論】本研究で明らかとなった教育ニーズに基づき、生殖器浮腫に関する教育を普及させる必要がある。

一般演題

長期療養施設における高齢者の下腿慢性浮腫に対する圧迫療法が Well-being に与える効果

(Effects of compression therapy on well-being for older adults with chronic leg edema in a long-term care facility)

発表者:

上田映美1)、 須釜淳子2)

所属:

1) 公立小松大学保健医療学部看護学科

2) 藤田医科大学保健衛生学部社会実装看護創成研究センター

【目的】長期療養施設に入所している高齢者にとって、下腿慢性浮腫のケアのアウトカムとして重要なのは、腫脹の軽減よりも Well-being の向上であるが、ケアによって Well-being が変化するかは明らかとなっていない。本研究の目的は、下腿慢性浮腫に対して圧迫療法を実施することによって Well-being が向上するかを評価することである。

【方法】研究デザインは症例研究で、対象者は、1 長期療養施設に入所し、慢性下腿浮腫を有する 65 歳以上の 5 名とした。方法は、対象者に対し、3 週間毎日圧迫包帯を実施した。Well-being の評価として、対象者に対し下腿の状態を問うインタビューを実施した。また、施設のスタッフに、Well-being に変化があったかを問うインタビューを実施した。インタビュー内容から Well-being に関する内容を抽出し、包括的 QOL 尺度である EQ-5D の 5 項目の健康状態、およびリンパ浮腫の疾患特異的 QOL 尺度である LYMQOL の 4 領域の健康状態のうちどの領域に変化があったのかを分析した。浮腫の変化として、足背、足首、下腿部の周囲径を測定した。本研究は、所属施設の研究倫理審査委員会より承認を得て実施した(承認番号 1804-02)。

【結果】浮腫の変化は、対象者 5 名全てに足背、足首、下腿部のいずれかの部位で浮腫の軽減効果が得られた。Well-being の変化は、4 名にみられ、EQ-5D の「身の回りの管理」「ふだんの活動」「痛み/不快感」「不安/ふさぎこみ」の項目において Well-being の向上が見られた。LYMQOL では「appearance」「symptom」の領域において Well-being の向上が見られた。

【結論】圧迫療法を実施することにより、Well-being が向上することが明らかとなり、下腿慢性浮腫に積極的に介入することの意義が示された。

一般演題

後腹膜肉腫による全身性浮腫により苦痛を生じた患者の希望を支えるセラピストの関わり

発表者：

ケリー由美子1)、千葉恵子1),2)

所属：

1) 亀田総合病院リンパ浮腫センター 看護師

2) 亀田医療大学看護学部看護学科

【はじめに】

後腹膜肉腫は、軟部組織から発生する悪性腫瘍であり、特に脂肪肉腫は成人期(40～60 歳代)にみられる希少がんの一つである。四肢や体幹原発の肉腫に比べ局所再発が主体であるため、再発腫瘍に対しては外科的切除や化学療法が検討されるが、適応にならないケースもある。

今回、後腹膜肉腫に対し複数回の再発・手術を繰り返しながら全身性浮腫により苦痛を生じていた患者に対し介入した症例を報告する。

【症例1】

後腹膜脂肪肉腫と診断され、再発により 5 回の腫瘍摘出術を経験した 40 代女性。浮腫ケアの依頼時は、体幹から両下肢にかけて浮腫が著名で、両下腿より漏出液を認めていた。

ケアの実際：両下腿からの漏出液への対応とスキンケアに努めた。その際に、ドレッシング剤と筒状包帯を併用し部分的に圧迫を行った。

結果：1 週間で漏出液はなくなり、両下肢の浮腫も介入前より－10cm 程度の周径差が得られた。患者は、あきらめていた浮腫が軽減したことで治療に対しても前向きに捉えるようになっていった。

【症例2】

他院で後腹膜脂肪肉腫に対し 2 回の腫瘍摘出術を受けたが腫瘍が増大し、当院に手術目的で入院となった 40 代女性。両下肢浮腫が著名で、浮腫による痛みもあることから介入依頼となった。この時、巨大な腹部腫瘍により自力体動も困難で、全身状態の悪化から手術適応とならず在宅療養へ移行することとなった。

ケアの実際：患者と家族の想いを聴きながら少しでも浮腫による苦痛を軽減し、自宅で過ごせるような支援を検討した。

結果：何かできることがあるということが本人や家族の希望となり、自宅での生活をイメージすることができるようになった。

【まとめ】

全身状態から浮腫に対して積極的な複合的治療が困難な状況ではあったが、患者がこれまでどのように病と向き合い生活してきたのか傾聴しながら浮腫に対するケアを行うことで、新たな希望を見出せるきっかけの一つになったのではないかと考える。

一般演題

当院におけるリンパ浮腫センター設立後の医療リンパドレナージセラピストによる取り組み

発表者：

沼口友美¹⁾

所属：

1) 亀田総合病院 リンパ浮腫センター

当院では 2008 年 12 月より看護師によるリンパケア外来、2018 年 2 月より医師によるリンパ浮腫専門外来が開設した。2020 年 4 月より、医師・医療リンパドレナージセラピスト 5 名の体制でリンパ浮腫センターが設立された。リンパ浮腫センター設立後の現状と今後の課題について報告する。

当センターは、リンパ浮腫の早期発見・早期治療に注力するとともに、患者のニーズに合わせた適切なリンパ浮腫の複合的治療・外科的治療によるオーダーメイド治療を提供することを目的に設立された。センター設立後より、医師によるリンパ浮腫外来にセラピストが常時同席。ICG リンパ管造影検査やリンパシンチグラフィーなどの画像検査結果をもとにリンパ浮腫の診断を行った上で、セルフケアの指導や弾性着衣の選定、運動療法の指導を行っている。昨年度のリンパケア外来での介入件数は、亀田クリニックで 482 件、京橋クリニックで 374 件であった。また、手術の適応がある症例に対しては、周術期における検査や説明にセラピストが同席し継続的なフォローを行っている。さらに、乳腺外科と連携のもと、腋窩郭清を施行した症例に対して術後早期の段階からセラピストが訪室し、リンパ浮腫に対する生活指導を行い、リンパ浮腫特有の自覚症状を認めた際は早期受診を促すなどリンパ浮腫発症前からリンパ浮腫に対する理解を深め、早期発見に努めている。

医師と密に連携をとることにより、症状増悪時に速やかに診察に誘導し、外科的治療の検討や複合的治療のプログラムの修正が可能となり、重症化の予防につながると考える。また、発症前や発症早期の段階から継続的にフォローすることにより、患者との信頼関係の構築や不安を解消できるような取り組みができていると考える。今後は、外科的治療後の経過や患者個人の状況に応じて、複合的治療を意欲的に継続できるプログラム作りを進めていきたいと考えている。

一般演題

ドセタキセルによる下肢浮腫が出現したステージIV乳がん患者の浮腫症状の出現特徴と QOL に関する事例報告

(Symptoms and QOL of lower limb edema in stageIV breast cancer patients treated with docetaxel: case reports)

発表者:

今方裕子1)、須釜淳子2)、大桑麻由美 3)、萱原正都4)、宗本将義4)、坂倉喜代美5)、
山森ゆみ5)、嶽加奈子5)、江戸稚香子5)、大江真琴6)

所属:

- 1) 石川県立看護大学成人看護学
- 2) 藤田医科大学社会実装看護創成研究センター
- 3) 金沢大学医薬保健研究域保健学系
- 4) 金沢医療センター外科
- 5) 金沢医療センター看護部
- 6) 金沢大学医薬保健研究域保健学系

【目的】ドセタキセルは乳がん患者において周術期や進行再発乳がんにおけるキードラッグとして使用される薬剤であり、特徴的な副作用として浮腫が知られている。乳がん患者では手術でのリンパ節郭清や放射線治療によって起こる上肢リンパ浮腫に焦点があてられており、これらに関するケアガイドラインは存在する。一方で、乳がん患者のドセタキセルによる浮腫は、上肢だけでなく、下肢にも出現するものの、どのような浮腫がいつおこっているのか明らかになっておらずそのマネジメントは確立されていない。本研究では、ドセタキセルによる下肢浮腫が重症化したステージIVの乳がん患者の下肢浮腫の出現特徴と QOL について事例報告する。

【方法】対象者は国立病院において 2020 年 9 月以降に乳がんと診断され、ドセタキセルの投与を開始した患者のうちステージIVであった 2 名とした。下肢の周囲径、浮腫症状、重症度評価 (CTCAE)、QOL 評価 (EQ5D5L、LYMQOL)、下肢皮下組織のエコー画像による質的評価を行った。大学と施設の倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】対象者は 70 代と 60 代の進行再発乳がんの女性 2 名であった。下肢浮腫は投与 4 回目以降に出現し、下肢周囲径はドセタキセル投与終了後 1-2 カ月で最大を迎えた。QOL は下肢浮腫の出現にともなって低下した。浮腫の重症度は Grade3 に至り、ドセタキセルの投与終了後も 4 カ月以上浮腫が持続していた。下肢皮下組織のエコー画像では、皮下脂肪組織に浮腫が出現した。

【結論】ドセタキセルによる下肢浮腫は皮下脂肪組織に液体貯留が起こり、患者の QOL を低下させ、投与終了後にも症状は悪化した。今回下肢浮腫が観察されたステージIVの患者では症状が重症化し、長期間持続していた。ステージIVの患者には、浮腫出現前からの予防ケアと長期間のケア継続が重要である。

一般演題

リンパ浮腫評価の標準化に向けたアウトカム調査:ILF-COM

発表者:

臺美佐子 1)、仲上豪二郎 2)、3)、小林範子 4)、佐藤文 5)、小柳礼恵 1)、光田益士 1)
真田弘美 2)、3)、Christine Moffatt 6)、須釜淳子 1)

所属:

- 1) 藤田医科大学保健衛生学部社会実装看護創成研究センター
- 2) 東京大学大学院医学系研究科 老年看護学／創傷看護技術学分野
- 3) 東京大学大学院医学系研究科附属グローバルナースングリサーチセンター
- 4) 北海道大学産婦人科
- 5) 川崎市立看護短期大学 看護学科
- 6) Nottingham university hospital care excellence institute, UK

【目的】リンパ浮腫評価のエビデンスが多く報告されてきているが、評価方法の標準化には至らず、臨床での実装データ蓄積や相互比較が困難なためリンパ浮腫管理のエビデンス創成の障壁となっている。そこで、リンパ浮腫評価方法の国際標準化に向けた浮腫アウトカム調査(ILF-COM)が複数力国で実施された。本発表では、本邦の浮腫アウトカムの実態を報告する。

【方法】ILF-COM のプロトコルに準じて実施し、機縁法で国内の医療従事者へ日本語版自記式質問紙調査を行った。基本属性と浮腫評価アウトカムについて記述統計を算出し、アウトカムのうち蜂窩織炎歴を選択した群と選択しなかった群で統計学的に比較した。本研究は、倫理審査委員会の承認を得て実施した。

【結果】有効回答数 213 で、看護師 77.4%、理学療法士 10.1%、医師 4.5%、作業療法士 4.0%、勤務期間は中央値 17 年(四分位範囲 0-25)であった。浮腫アウトカムとして蜂窩織炎既往歴を選択した者(選択群)は 55.4%(n=118)、選択しなかった者(非選択群)は 44.6%(n=95)であった。選択群は非選択群に比べ、リンパ浮腫管理経験を有する者の割合が高く(54.4% vs 13.8%, $P<0.000$)、他の浮腫アウトカムとして生活の質(QOL)(82.5% vs 35.1%, $P<0.000$)、周囲径計測(80.0% vs 29.4%, $P<0.000$)、ISL 病期分類(50.5% vs 5.3%, $P<0.000$)、超音波画像診断(23.9% vs 4.3%, $P<0.000$)、治療アドヒアランス(21.7% vs 8.4%, $P<0.012$)と回答した者の割合が高かった。

【考察・結論】浮腫アウトカムとして蜂窩織炎既往歴を選択した者は約半数で、リンパ浮腫管理経験に基づくことが明らかとなり、医療従事者全体へ蜂窩織炎予防を視野に入れた浮腫評価教育の必要性が示唆された。また、蜂窩織炎既往歴を選択した者の浮腫評価アウトカムの特徴が明らかとなり、周囲径・病期分類・超音波画像診断といった患肢評価に関する信頼性・妥当性・継続可能性が高い方法、QOL や治療アドヒアランスといった心理社会的側面も考慮した国際比較可能な尺度の検討が、今後の浮腫評価標準化に向けて必要な視点であると考えられる。

一般演題

リンパ浮腫とともに生きるとは ～患者の視点から～

発表者：

岩澤玉青1)

所属：

1)リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット) 代表

一旦発症すると根治が見込めず、患者の気持ちや QOL に大きく影響を与えるリンパ浮腫。リンパ浮腫の治療や毎日行わなければならないセルフケアは日常生活におけるウエイトが高く、長期間にわたる。患者自らが治療に積極的に関わる姿勢が大切な一方で、患者支援や治療環境の課題も多く改善が求められる。 演者は 2013 年に乳癌手術と腋窩リンパ節の郭清を行い、術後すぐにリンパ浮腫を発症。2 年半が経過した 2015 年に蜂窩織炎をきっかけに腕から指先までパンパンに腫れあがるような状態に悪化した。がん治療病院でリンパ浮腫外来の紹介を受けるが、予約日を待たずして炎症が悪化し、高熱のなか自ら急患でリンパ浮腫を診察できる病院を見つけなければならず、必要な施設情報を得るのにとても苦労した経験がある。 リンパ浮腫と共に人生を歩むなかで、適切な情報へたどり着くことへの難しさ、同じ悩みを共有できる仲間を見つけることの難しさ、見た目や体調不良の問題、さらに治療施設へのアクセスの難しさ、不十分な保険など、リンパ浮腫を取り巻く治療環境に課題が多いことを痛感し、リンパ浮腫の患者支援と医療環境の改善を目指した非営利団体、リンパ浮腫ネットワークジャパン(通称:リンネット)を 2019 年 11 月に設立した。今回は、リンパ浮腫治療をとりまく課題と患者会設立に至った思いをお話する。さらに、設立から約 1 年の活動を通して患者の切実な声がたくさん届いている。これまで実施したアンケートから見えてきた「患者の実態・困りごと」や「医療に対する要望」を具体的にお示したい。 医療者と患者が思いを共有する機会になれば幸いです。

謝 辞

国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第 10 回学術集会の開催にあたりまして、多くの企業・団体からご支援をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。

■ランチョンセミナー協賛

株式会社ベーテル・プラス

■協賛企業

一般社団法人 ICAA

三優メディカル株式会社

GE ヘルスケア・ジャパン株式会社 千葉支店

ナック商会株式会社

富士フイルムメディカル株式会社

株式会社ベーテル・プラス

株式会社メディックス

ユコー株式会社

■寄付金

ソリューション株式会社

(五十音順、敬称略)

第10回学術集会会長 林 明辰

(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 第10回学術集会委員

■学術集会長

林 明辰(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リンパ浮腫センター長)

■副学会長

千葉 恵子 (亀田医療大学教員・緩和ケア認定看護師・リンパ浮腫療法士)

■事務局長

ケリー 由美子(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リンパ浮腫センター)

■運営事務局

吉田 綾子(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 がん拠点病院推進センター 副センター長)

大橋 洋子(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 がん拠点病院推進センター)

黒川 亜純(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 がん拠点病院推進センター)

唐鎌 房子(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 がん拠点病院推進センター)

沼口 友美(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 リンパ浮腫センター)

■システム担当運営委員

鈴木 久美子

(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 情報管理本部 情報システム部 事務システム課 係長)

渡辺 恭次郎

(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 情報管理本部 情報システム部 医療システム課 係長)

西川 理恵(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 情報管理本部 情報戦略室 係長代理)

笹生 翔兵(医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 医療管理本部 診療管理部 診療部事務室)